

新しい政治状況の中で働くルール・憲法を守り より府職労運動を発展させよう!!



府職労は12月10日に定期大会を開催します。大会はこの1年の府職労のたたかいや運動の総括を行い、向こう1年間の要求実現にむけた方針を決定する重要なものです。大会に向けて、橋口副委員長に語っていただきました。

府民との共同をひろげ橋下「行革」撤回 地方自治を守ろう

副委員長 橋口 紀塩



や生活を守る運動が全国各地ですすめられました。

8月末の総選挙で「自公政権」「構造改革」の怒りが爆発し、民主党中心の鳩山内閣が誕生しました。

ひきつづき 労働者派遣法の 抜本改善署名を

この1年間は橋下府政に關わっては市場化テスト反対の取り組みやWTC移転問題でのたたかいが象徴的でした。また、反貧困のたたかきも象徴的でした。昨年の秋以降「派遣切り」等の非正規労働者の雇用問題

このような中で今年の大会の方針の特徴は、1つは労働者派遣法の早期抜本改正や最低賃金の大幅引き上げ、公契約条例制定の運動など「働くルール」の確立に向けた運動を職場・地域で大いにすすめることを提起しています。すでに府職労は労働者派遣法抜本改正の署名を目標15000筆と決定し、取り組みをすすめています。各職場から署名が届き5000筆を集約し、自治労連や大阪労連の牽引車の役割を發揮しています。雇用問題では失業が増えている中でなんとかして、昨年の派遣切りのような労働者に変な痛みを押し付けを許してはなりません。



このような中で今年の大会の方針の特徴は、1つは労働者派遣法の早期抜本改正や最低賃金の大幅引き上げ、公契約条例制定の運動など「働くルール」の確立に向けた運動を職場・地域で大いにすすめることを提起しています。すでに府職労は労働者派遣法抜本改正の署名を目標15000筆と決定し、取り組みをすすめています。各職場から署名が届き5000筆を集約し、自治労連や大阪労連の牽引車の役割を發揮しています。雇用問題では失業が増えている中でなんとかして、昨年の派遣切りのような労働者に変な痛みを押し付けを許してはなりません。

第89回府職労定期大会 社会福社会館 4階ホール
12月10日(木) 9:30~17:00

2つ目は憲法を守り、いかす運動を大いにすすめることです。憲法9条はもとより、25条の生存権、27条の雇用、28条の労働者の団

転反対の取り組みをすすめます。4つ目は府に働くすべての職員・労働者の賃金・労働条件の改善と組織強化・拡大が求められています。とりわけ非正規労働者の待遇の大幅な改善に向け、府職労あげて取り組みを推進します。

3つ目は橋下「行革」反対の取り組みをこれまでの府民運動の広がりや確信をもち、より以上に共同の運動を広げることです。地方自治破壊の府解体・道州制を許さず、府政の民主化を求めるとともに、府職労の取り組みが求められています。WTC移転問題は条例は否決・予算案は可決の状況が踏まえ、2月府議会・5月府議会、「契約問題」など85億円もの無駄遣いを許さず、引き続き移

最後に、今年の議案の最大の特徴は次世代の育成を提起したことにあります。全ての組合員が取り組むべきところで学習運動をすすめる、府職労運動の担い手づくりをめざします。府職労学校も企画しおおいに次世代育成をすすめます。



新しい政権のもとで 国民要求の前進へ さらなるたたかひの強化を

9月16日、民主党を中心とする鳩山内閣が誕生。就任後すぐの各大臣の記者会見などにおいて、労働者派遣法の見直し、後期高齢者医療制度の廃止、生活保護母子加算の復活、子ども手当の創設、高校授業料の実質無料化、ハックダムの建設中止をはじめ143全てのダム見直しなどのマニフェスト実現が表明さ

れました。しかし、2ヶ月半が経過した現在、後期高齢者医療制度廃止が先送りにされ、労働者派遣法の改正論議が財界からの強い反対がたされ、さらには税収入の落ち込みが激しく予算確保の目途が立たないなど、厳しい状況にあります。

今、国では10年度予算のうち3兆円の削減めざし「事業仕分け」が行われ、連日マスコミで大きく取り上げられています。その模様は、大阪府の09年度予算査定における財政再建PTと各部長との「バトル」を連想させます。軍事費や政党助成金などはそのまま、国民生活にとって必要な予算が削減されています。また、「評価者」に小泉構造改革推進者が入っていることも大きな問題です。このような右からの巻き返しは許されません。

しかし、最近の「普天間基地の県外・国外への移転問題」や「事業仕分け」の状況などの動きを見ても民主党は大きく揺れています。自公政権を崩壊させ、民主党政権を実現した力は、構造改革に対する怒り、社会保障や福祉、雇用確保に対する期待です。その力が弱くなれば、「頭部」は新自由主義的構造改革を進めるし、「胴体」は開発型施策を進めることになる、そのせめぎ合いが今展開されています。

三つの構成部分
一橋大学の渡辺治教授は、「民主党は一枚岩ではなく、相互に異なる国家構想を背後に有した三つの構成部分からなっている」として、①小泉流新自由主義的構造改革を追求する党や政府の執行部を形成する「頭部」、②構造改革で自民党に愛想を尽かした地方を総取りし、民主党による開発と官僚の「独占」、事実上の修正「開発型国家」をめざす巨大勢力の小沢

派の「胴体」、③自公政権の開発型政治、構造改革政治の矛盾を国会で追及し、民主党の看板的政策を担いマニフェストの拡充を進めてきた衆参両院にまたがる中堅議員集団からなる組織的力を持たない「手足」、の三つを指摘しています。